

高等学校における支援が必要な
生徒の就職支援の充実に向けて

「就職支援シート」等を活用した 実践事例とQ&A

本県の高等学校には、発達障害等の可能性を含む支援が必要な生徒が、毎年一定数程度在籍しています。

支援が必要な生徒が、生涯にわたって自立し、社会参加することができるよう、高等学校における就職支援の充実を図り、社会的・職業的自立を目指す取組を進める必要性が年々高まっています。

鹿児島県教育委員会では、生徒の自己理解を深めるための「自分の得意・不得意 気づきシート」や、自分の力を発揮できるように生徒自身が必要な支援をまとめる「サポートシート」、就職先でも継続して支援が受けられるよう、必要な支援内容等を就職先に伝えるための「就職支援シート」の三つのシートを活用した取組を進めており、今回、「就職支援シート」等の活用方法について、研究協力校での実践を基に事例集とQ&Aにまとめました。

支援が必要な生徒が、社会に出た後も生き生きと自分らしく働き、よりよい社会生活の実現を図ることができるよう、御活用いただければ幸いです。

「自分の得意・不得意 気づきシート」、「サポートシート」、「就職支援シート」については、資料最終頁に掲載してあるリーフレットを参照してください（鹿児島県教育委員会HP掲載中）。



令和3年3月
鹿児島県教育委員会

就職支援シート等に関するQ&A

(自分の得意・不得意 気づきシート・サポートシート・就職支援シート)

【 自分の得意・不得意 気づきシート 】

Q: 「自分の得意・不得意 気づきシート」は、どんな目的で作成されていますか。

A: 自分の得意なことや苦手なことについて考えることで、客観的に自分を見つめることを目的としています。将来の職業選択をする上で、自分を知っておくことは必要であり、自分に合った就職先を選択する上では大切なことです。

Q: 「自分の得意・不得意 気づきシート」は、いつ頃どのようなタイミングで活用すれば良いですか。

A: 年度初めや学期初め、インターンシップ前、教育相談前にLHRで活用しているケースが多く見られます。
自己理解を深めたり、自己の成長を感じたりする機会としてシートの活用ができます。また、結果を教育相談や三者面談等で活用することにより、学校生活や卒業後の進路について、生徒や保護者と一緒に考えるためのツールとしても利用することができます。

Q: シートは個別に使用するものですか、それとも学級など集団で使用するものですか。

A: 使い方は、個別でも集団でもどちらでも利用できます。
支援が必要な生徒だけではなく、学級や学年など集団で利用することで、ふだんの学校生活では気付かないことに気付くことがあります。
LHRや進路に関する学習などで一斉に取り組み、必要に応じて個別面談などで活用するなど、目的に合わせて、使用方法を工夫しましょう。

Q: 使用する上で気を付けることなどありますか。

A: 生徒の記入した結果と教師の評価にずれが見られることがあります。様々な要因（自己理解が難しい、設問の意味が十分理解できていないなど）が考えられますが、生徒自身の自己理解が進むよう丁寧に結果を考察することが大切です。
生徒の自尊感情を大切にしながら、結果をどう活用するかを考えましょう。

就職支援シート等に関するQ&A

(自分の得意・不得意 気づきシート・サポートシート・就職支援シート)

【 サポートシート 】

Q: サポートシートはどんな目的で作成されていますか。

A: 「自分の得意・不得意 気づきシート」と同様に、自己理解を図ることを目的としています。

支援が必要な生徒の中には、就職の際に自分の適性に合わない仕事を選択してしまうことや社会に出てから困っているときに「困った」と伝えられずに職場での人間関係が上手くいかなくなってしまうケースなどがあります。

「支援があれば自分の力を発揮できる」ことに気づき、適切な支援を受けることができるようにするために作成したシートです。

Q: サポートシートを効果的に活用するにはどうしたらよいですか。

A: 「自分の得意・不得意 気づきシート」を参考に考えると、自分の努力次第で克服できそうなこと、努力しても難しくサポートしてほしいことなど、生徒自身が気付くことがあります。生徒の気づきを大切にしましょう。また、インターンシップ等の機会に、生徒の特性等を受入事業所に伝える際のツールとしても活用できます。

Q: サポートシートをインターンシップや就職の際に、企業への引継ぎに活用できますか。

A: できます。生徒の特性を理解してもらうことは、その後の配慮や支援に役に立ちます。「こんな配慮をすることで、こんな場面で力を発揮できます」など、生徒の配慮が必要な部分だけではなく生徒自身のよさを伝えることができるツールとしても活用しましょう。

Q: 使用する上で気を付けることなどありますか。

A: シートを作成する際、生徒一人だけでは記入が難しいことがあります。必要に応じて、教師による助言や支援を行ったり、保護者の協力の下に作成したりするなど、実態に応じて工夫することも大切です。

進路先に出す場合は、本人や保護者の承諾を得るなど、個人情報であるため取扱いには十分注意してください。

企業等に書面で提出しない場合でも、面談や打合せ時の資料として活用することもできます。

就職支援シート等に関するQ&A

(自分の得意・不得意 気づきシート・サポートシート・就職支援シート)

【 就職支援シート 】

Q： 就職支援シートを使用するメリットはどんなことですか。

A： 企業の立場からは、支援が必要であることを理解した上で雇用をした方が、合理的配慮を提供しやすく、環境を整えることにつながりやすいとの意見があります。

支援が必要なことをオープンにすることで、本人にとっての心理的負担を軽減したり、職場からの理解を得やすかったり、必要に応じて支援機関からのサポートを受けやすくなったりするなどのメリットがあります。在学中の支援を就職先につなぐことで、就職先でのトラブルや離職等を未然に防ぐことにもつながることから、生徒・保護者にも支援をつなぐことの大切さを丁寧に説明することがポイントです。

Q： 就職支援シートを企業に提出することで、生徒にとって不利益になることはありませんか。

A： 不利益になることがないように、企業等への説明を十分行うことが大切です。企業等への説明もなくシートを送付することは、避けるようにしましょう。就職支援シートの情報を出願時に企業側へ提供することについては、慎重な対応が望まれ、本人・保護者の同意の上、使用することが大切です。また、就職内定後に企業側へ説明を十分した上で引継ぎを行うなどの工夫をすることも、雇用する側の不安を解消することにつながります。

Q： 就職支援シートを活用するに当たって、気を付けることはありますか。

A： 就職支援シートの作成については、本人・保護者の同意の上で行うことが大切です。また、個人情報を含むことから、作成後には保護者に確認をとるようにしましょう。就職支援シートは、対象生徒の支援が必要な部分やできないことを中心に記入するのではなく、どのような支援や配慮があれば、生徒自身が力を発揮できるかという視点で作成することで有効に活用することができます。

「就職支援シート」等の活用事例 研究協力校の取組から

【A 高等学校の取組】

校内支援体制を整え、外部機関との連携を図ることで、生徒の進路実現を目指す取組を進めた事例

【シート活用の対象となる生徒について】

中学校からの移行支援シートでの引継ぎがあり、外部支援機関とのつながりがない生徒

コミュニケーションや感情のコントロールが苦手など支援が必要と思われる生徒



ポイント

※ 自己理解を進めるための様々な検査、ツール等の活用
知能検査（WISC等）、進路適性検査、マルチ検査、hyper-QU
自分の得意・不得意 気づきシート 等

【校内支援体制の構築】

- 1 不適応対策委員会と特別支援教育委員会（年5回）
出身中学校との連携…中学校を訪問し情報の引継ぎ
- 2 職員研修で外部講師招聘
特別支援教育に関する校内研修を実施し、職員の理解を深める取組
- 3 近隣の特別支援学校との連携
障害のある生徒への指導・支援や障害者雇用に関する情報交換等

職員間の共通理解が重要

ポイント

【「就職支援シート」等を活用した就職支援のために】

- 1 1学期に職員向けに説明。シートを活用する生徒について情報共有
- 2 就職を希望する生徒・保護者への説明
三者面談において説明・配付を行い、希望のあった生徒に活用
※ 手帳の未取得や外部支援機関等とのつながりがない生徒には支援を受けることや引継ぎをすることのメリット等を十分に説明
- 3 近隣の特別支援学校との連携
障害のある生徒への指導・支援や障害者雇用に関する情報交換等



ポイント

支援の引継ぎを、移行支援会議で企業担当者へ直接伝える

【引継ぎの実際例】

- ・ 一般雇用から障害者雇用へと切り替えて採用となった生徒の例
（当初、一般雇用を希望していたが、一般雇用と障害者雇用の違いなど、企業と十分確認をした上で、本人・保護者と事前準備を進め、障害者雇用での採用となった。）
- ・ 卒業式以降、企業・生徒・保護者・支援機関・学校（担任）が集まり、移行支援会議（学校から企業への引継ぎ）を実施。「サポートシート」、「就職支援シート」を企業と支援機関に提示し具体的な支援の引継ぎを行う。支援機関からは本人・企業へのフォローアップ等についての説明。

「就職支援シート」等の活用事例 研究協力校の取組から

【B高等学校で取組】

生徒の実態に応じて、必要な支援を行うためのツールとして「就職支援シート」等を活用した事例

【支援が必要な様々な生徒の実態】

高次脳機能障害
のある生徒

発達障害が疑
われる生徒

知的発達の遅
れがある生徒

学習面での支援
が必要な生徒

不登校傾向の
生徒

LHRでクラス全体に「自分の得意・不得意 気づきシート」を使用
その結果を基に個別教育相談を実施

一人一人が個性を発揮し、それぞれの能力を伸ばしていくために
「就職支援シート」等の活用を模索



ポイント

「自分の得意・不得意 気づきシート」等のツールの活用により、生徒・保護者・教員など、それぞれに新たな気づきの発見

【就職支援の取組「サポートシート」の活用】

「得意なことや強さ」、「不得意なことや弱さ」についてまとめたサポートシートを活用することで、支援が必要な場面や具体的な内容を伝えることができる。

【引継ぎの実際例】

場面緘黙等の特性が見られるが、体力があり、作業能力が高いという生徒について、本人の強みを生かし、地元の建設関係企業に就職が内定した。間違いを責められたり、苦手な事を要求されたときは行動が滞ることがあることなどの特性を雇用する側に理解してもらい、本人に合わせた支援や働き方ができるよう「サポートシート」を活用した情報提供・引継ぎを行った。



ポイント

就職する生徒だけでなく、進学する生徒にも一人一人の実態に応じて「サポートシート」を活用し、新しい進路先に引継ぎを行うことができた。

「就職支援シート」等の活用事例 研究協力校の取組から

【C高等学校の取組】

学習面、生活面で支援が必要な生徒に対して行った、入学時から就職先決定までの支援と「就職支援シート」等の活用についての取組事例

【実態】

【学習面】

- ・ 具体的な指示がないと学習内容が分からず、不安になる。
- ・ 授業中、突然大きな声を出してしまうことがある。

【生活面】

- ・ 人との距離間が分からず、異性に対しての距離が近いことがある。
- ・ 休み時間ごとにトイレ（個室）にこもる。

チック症状、頻繁に手洗い、
行動特性が周囲に理解されず、一人で行動することが多い
ADHD診断、自閉症の傾向、療育手帳の所持なし

【校内での支援体制のために】

- ・ 中学校からの支援の引継ぎ内容を職員会議で情報共有
- ・ 学年担当者会、特別支援教育推進委員会を開き、対応を検討（年間を通じて委員会を開催）、個別の教育支援計画の作成
- ・ 放課後支援の実施（学習支援・教育相談・社会性に関する個別指導）
- ・ 臨床心理士によるカウンセリング、特別支援学校の巡回相談等の活用



ポイント

校内での情報共有を行い、様々な対応を検討した上で、専門家や地域の人材等の活用、校内支援体制の構築へ向けて取り組んだ。

【就職支援の取組「就職支援シート」等の活用】

- 1年次：卒業後の進路を見据えた支援を継続的に行い、保護者とも学校での様子や就労支援に関する情報提供及び進路希望を確認
- 2年次：「自分の得意・不得意 気づきシート」使用。専門家を交えた就労に関する具体的な面談を実施し、本人及び保護者の就労に際して企業への支援の引継ぎ希望を確認
- 3年次：応募前職場見学に参加。卒業後に「就職支援シート」の内容を保護者に再確認した上で、支援の引継ぎのために企業に提出



ポイント

進路決定に向けて、1年次から組織的・計画的に取り組み、就職支援シート等のツールを有効活用して、切れ目ない支援を行うことができるよう取り組んだ。

【 支援が必要な生徒の就労に関するQ&A 】

Q： 就職支援に関して、校内支援体制を整えるためにはどのようなことに取り組んだらよいですか。

A： 支援が必要な生徒への理解を深めるため、研修等を行い学校全体で生徒の困難さに気付くことが大切です。校内における支援は、特別支援教育に携わる担当者や担任だけが行うものではなく、管理職のリーダーシップの下、全校体制で考えていく必要があります。まずは、校内支援委員会や特別支援教育委員会等を設置し、組織的に取り組める体制を作ることから始めることが大切です。

Q： 支援が必要な生徒の就職について、相談できる関係機関はどのようなところがありますか。また、連携を図るには、どのようなことが大切ですか。

A： まずは、どのようなことで相談したいのかを整理しておきましょう。相談の対象は、生徒や保護者なのか、先生方なのか。相談したい内容は、どんなことなのか。本資料の最終頁に関係機関の一部を掲載しています。まずは電話で連絡を取り、具体的な相談内容を伝えてみましょう。
関係機関との連携を図る際に、複数の機関と連携を図る必要が出てくる場合があります。その際は、学校が中心となって支援会議等を開き、それぞれの役割を明確にして進めていくことが大切です。

Q： 高卒求人と障害者専用求人の違いは何ですか。

A： 障害のある方専用の求人（障害者専用求人）があり、ハローワークには、障害者雇用を希望する企業の求人票があります。時間や環境、働く内容など障害者求人を担当する方に相談をしながら進めることで、本人に合わせた働き方を見付けることができます。（スケジュールの違いは次頁参照）

Q： 障害のある方の就労で、「オープン」と「クローズ」とはどのような意味ですか。

A： 一般的に、障害があることを企業に開示して就職することをオープン、開示せずに就職することをクローズと言います。

Q： 「オープン」で就職したときのメリットやデメリットはありますか。

A： 障害があることを企業に開示して就職することで、働き方や職場環境等への配慮が受けやすくなります。また、オープンにすることで支援機関からの支援も受けることができます。このことは、本人に合わせた働き方や職場での支援につながり、結果的に職場定着結び付くこととなります。
デメリットとしては、求人数や仕事の内容などが一般求人よりも少ないことなどが挙げられます。

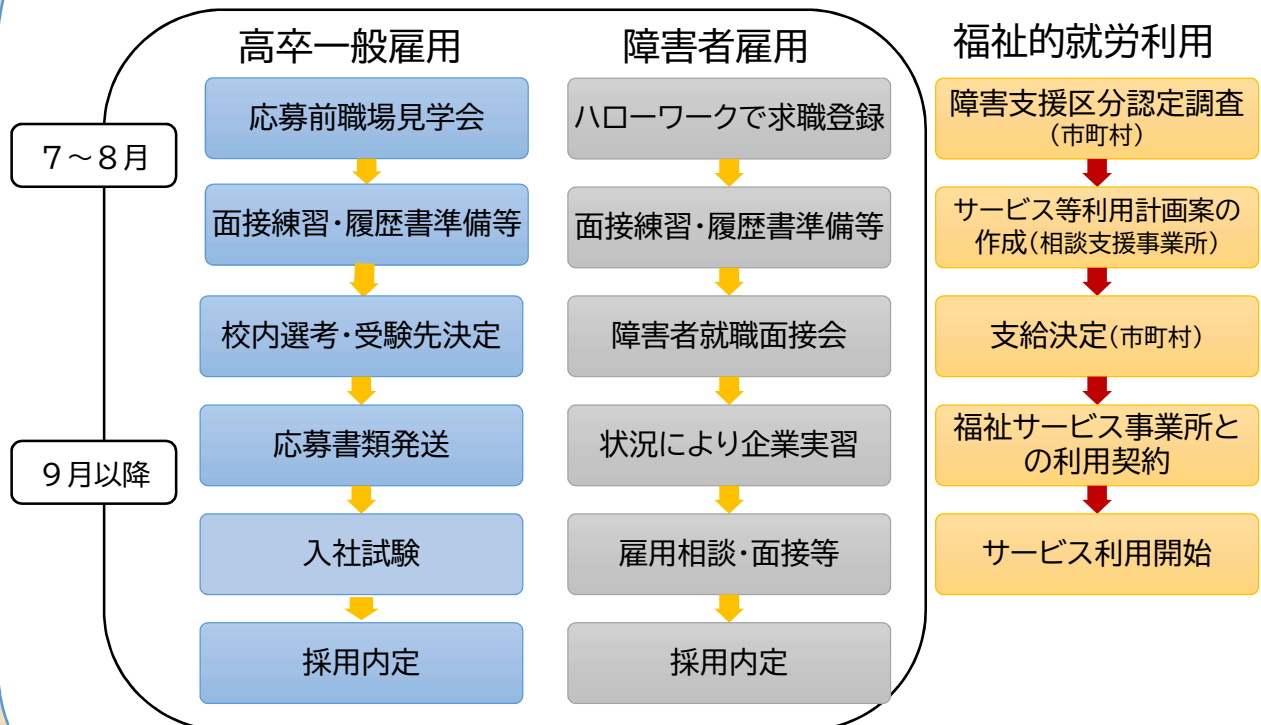
【支援が必要な生徒についての就職までのスケジュール】

	高卒求人希望者スケジュール	障害者用求人希望者スケジュール
月	<p>高3になるまでの間に、高卒求人か障害者専用求人のいずれかを選択しておくことが望ましいが、年度途中から切り替えることは可能。 本人の意思決定支援のため、高3になるまでの間に就職支援シート等（得意・不得意気づきシートやサポートシート）の活用で自己理解を図る。</p>	
4月	家庭訪問，進路希望調査，三者面談等	家庭訪問，進路希望調査，三者面談等
5月		
6月	公共職業安定所での求人受付開始	
7月	各高校への求人票送付（7月1日から）	<ol style="list-style-type: none"> 1 公共職業安定所で求職登録 <ul style="list-style-type: none"> ・ 就職面接会までに行う （夏季休業中に行うことが多い） ・ 管轄のハローワークで実施 2 障害者就職面接会（9月末） <ul style="list-style-type: none"> ・ 面接会までに履歴書の準備 ・ 複数社の面接可能 3 就職面接会の結果報告 （企業によって異なるため要確認） <ul style="list-style-type: none"> ・ 面接で合否が決定する場合 ・ 職場実習等を経て合否が決定する場合 → 実習可能な日程と期間の調整 4 内定通知 企業側が障害者雇用の助成金を活用する場合は、内定が1月以降となる場合がある。 5 <u>必要な支援についてまとめた就職支援シート等</u>を活用し、<u>雇用先へ必要な支援内容の引継ぎ</u>を行う。
8月	応募前職場見学（7月から8月）	
9月	応募書類受付開始，応募書類発送 入社試験開始 （9月中1人1社制，10月以降1人2社まで可）	
10月	合同就職面接会	
11月		
12月		
1月		
2月		
3月	卒業式	

※ 障害者専用求人について

- ・ 障害のある方のための求人です。求職登録をすることでハローワークの障害者専用求人に応募する。
- ・ 求人票の内容について、ハローワークと連携することで、勤務時間や業務内容等の確認の他、合理的配慮が必要な点を考慮して、本人に合った働き方を紹介。
- ・ 障害者雇用での求職活動は、障害者就職面接会だけではなく、障害者専用求人や企業、関係機関等からの情報収集など、当事者に合った働き方ができる企業開拓が重要。
- ・ 高卒求人や一般求人から障害者専用求人へ切り替えること等もできるため、企業やハローワーク、障害者のある方の就労支援を行う関係機関等との連携を図ることが大切。

一般雇用, 障害者雇用, 福祉的就労の一般的な流れ(イメージ)



※ 詳細な時期等については, 各学校・関係機関等に御確認ください。
福祉サービス利用については個々に異なるため, 時期は示していません。

就労関係についての相談・支援関係機関

【ハローワーク・ヤングハローワーク】

就職の際の窓口になります。障害者雇用を希望する場合は, 求職登録を行うことで, 障害者専用求人に応募することができます。また, ハローワークを通して就職活動を行うことで, 様々な支援につながってきます。

ヤングハローワークは就職活動をする若者専門の窓口です。就職支援のエキスパートであるジョブサポーターやナビゲーターによるきめ細やかな就職支援を行っています。

【鹿児島障害者職業センター】

障害者職業カウンセラー等を配置し, 就職や職場復帰を目指す障害のある方, 障害者雇用に関する事業主等に対して, 支援・サービスを提供しています。障害のある方へのサービスとして「職業相談・職業評価」, 「職業準備支援」, 「職場適応援助者(ジョブコーチ)による支援」等を行っています。

ジョブコーチとは?… 障害のある方と雇用している企業の間に入り, 障害のある方が円滑に就労できるように職場内外の支援環境を整えていきます。

【障害者就業・生活支援センター】

障害のある方の就業面及び生活面に関することについて, 就業支援担当者と生活支援担当者が協力して一体的な支援を行います。また, 企業やその他の関係機関とも連携し, 本人に合わせた支援を行います。県内7か所(かごしま, あいらいさ, なんさつ, ほくさつ, おおすみ, くまげ, あまみ)にあります。

【県内特別支援学校】

県内の特別支援学校も, 障害者雇用に関するノウハウをもっています。日頃から関係機関と密接に連携を図っており, 情報交換・相談等で活用することができます。

【「就職支援シート」等の活用に関する情報について】

これまでに県教育委員会が発行した「就職支援シート」等の活用に関するリーフレットも御活用ください。

鹿児島県教育委員会のホームページにも、それぞれPDFのデータで掲載されています。

特別支援教育雇用サポート連携事業

高等学校における支援が必要な生徒の引継ぎの充実に向けて
「就職支援シート」及び「サポートシート」、「自分の得意・不得意気づきシート」の活用



「就職先でうまくやっていけるかな」と思いながら送り出した生徒はいますか。実際、就職先で十分な配慮や支援が受けられなかったため、離職してしまうケースが多くみられます。

そのような生徒を一人でも少なくするために、生徒自身が自分の必要な支援をまとめ、事前に就職先に伝えることを目的とした「就職支援シート」を作成しました。

また、「就職支援シート」を作成するためには、生徒が、自分の得意なことや不得意なこと、セールスポイント、配慮してもらえたらできるようになることなどに、気付くことが重要です。「サポートシート」や「自分の得意・不得意 気づきシート」を活用して、それらを生徒と一緒に確認し、就職先へ伝えたい支援事項をまとめてください。

これらのシートを効果的に活用して、生徒の自己理解を促し、事前に就職先へ必要な支援事項を引継ぐことで、卒業後も継続した支援が受けられるようにするとともに、支援が必要な生徒が、生き生きと充実した生活を送れるよう支援していきましょう。


 鹿児島県教育委員会
平成29年度作成

切れ目ない支援体制構築に向けた特別支援教育充実事業リーフレット

高等学校における支援が必要な生徒の就職支援の充実に向けて

支援が必要な生徒が、社会に出た後も生き生きと自分らしく働き、よりよい社会生活の実現を図ることができるよう、在学中から卒業後まで切れ目ない支援体制を構築することが大切です。

鹿児島県教育委員会では、生徒の自己理解を深めるための「自分の得意・不得意 気づきシート」や、自分の力を発揮できるように生徒自身が必要な支援をまとめる「サポートシート」、就職先でも継続して支援が受けられるよう、必要な支援内容等を就職先に伝えるための「就職支援シート」を活用した取組を進めています。

 令和2年3月
鹿児島県教育委員会

【概要】

「就職支援シート」等（「自分の得意・不得意 気づきシート」、「サポートシート」、「就職支援シート」）について紹介しているリーフレット

【概要】

「就職支援シート」等の活用の仕方について紹介しているリーフレット

【研究協力校 県立高等学校15校】

山川高等学校、	加世田常潤高等学校、	市来農芸高等学校
川薩清修館高等学校、	鶴翔高等学校、	霧島高等学校
福山高等学校、	南大隅高等学校、	種子島高等学校
屋久島高等学校、	大島北高等学校、	喜界高等学校
徳之島高等学校、	沖永良部高等学校、	与論高等学校

【問合せ先】 鹿児島県教育庁義務教育課特別支援教育室(099-286-5296)